

令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について

～12月2日（火）より実証実験を開始します！～

物流危機への対応やカーボンニュートラルの実現を図るため、道路空間に物流専用スペースを設け、クリーンエネルギーを電源とする無人化・自動化された輸送手段により荷物を運搬する新たな物流システム「自動物流道路」の構築を推進しています。

今般、令和7年9月19日に採択を行いました、「令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」について実験を開始します。

■国土技術政策総合研究所において実施する実験のスケジュールについて（代表社を記載）

- ・2025年12月2日（火）～12月4日（木） 前田建設工業株式会社
- ・2025年12月17日（水）～12月18日（木） 大成建設株式会社
- ・2026年2月3日（火）～2月5日（木） NTTドコモビジネス株式会社
- ・2026年2月4日（水）～2月5日（木） 株式会社大林組
- ・~~2026年2月12日（木）～2月19日（木）~~ Cuebus株式会社
- ・2026年2月25日（水）～2月27日（金） 鹿島建設株式会社

■自社施設等において実施する実験のスケジュールについて（代表社を記載）

- ・2025年12月10日（水）～12月11日（木） 株式会社豊田自動織機
- ・2026年1月6日（火）～1月16日（金） 大成建設株式会社
- ・2026年1月28日（水）～1月30日（金） 野村不動産株式会社
- ・2026年2月17日（火）～2月18日（水） 成田国際空港株式会社
- ・~~2026年2月12日（木）～2月19日（木）~~ Cuebus株式会社

※Cuebus株式会社の実証実験実施場所を変更いたしました。（令和8年2月4日）

■実証実験の取材について

○本実証実験は、報道関係者のみ取材可能です。

○実証実験の取材をご希望の方は、ご希望される実験の開始日の一週間前までに、下記問い合わせ先までご連絡ください。

※取材受け入れ可能な時間に限りがあるため、ご希望に添えない場合がございます。
ご了承ください。

※メールでの取材申込の場合は、以下のとおりご連絡ください。

件名：【取材希望】自動物流道路実証実験

本文：氏名（ふりがな）、所属、取材内容、連絡先（電話番号、メールアドレス）

送付先：hqt-keicho1★gxb.mlit.go.jp（★を@に置き換えて送付願います）

（取得した個人情報は適切に管理し、必要な用途以外に利用しません。）

■実証実験計画概要について

実証実験計画概要（令和7年10月29日）※令和8年2月4日修正（P.36～40）

https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/autoflowroad_consoritium/mks/operation_bunkakai03/02.pdf

(参考)

自動物流道路（オートフロー・ロード） 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/road/autoflow_road/

<問合せ先>

(実証実験全般について)

道路局企画課道路経済調査室 企画専門官 遠藤、係長 村松

代表：03-5253-8111（内線37-622、37-623）、直通：03-5253-8487

(国土技術政策総合研究所について)

国土技術政策総合研究所道路交通研究部 道路研究官 小林、主任研究官 田中

代表：029-864-2211（内線3612、3623）、直通：029-864-2219、7219



○ 建設中の新東名高速道路の区間における2027年度までの実験実施に先立ち、既存の技術・施設における実験を通じ、自動物流道路の実装に向けた技術的課題の検証および運用に必要な条件整理等を行うため、6つのユースケースに沿って実証実験を実施。(9/19に9グループ12ケース採択)

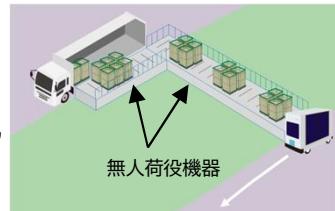
実験場所：国土技術政策総合研究所の試験走路(申請者より提案のあった場所での実施も可)

実験期間(国総研)：12月1日(月)～2月27日(金)

※大成建設は自社施設で走行中給電の実験も予定

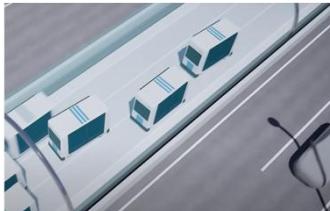
ユースケース① 野村不動産、豊田自動織機 拠点：無人荷役機器による荷役作業の効率化

無人荷役機器によるトラックからの荷積み・荷卸し、搬送機器への積み替え作業の自動化に必要な床面積、作業時間などについて検証



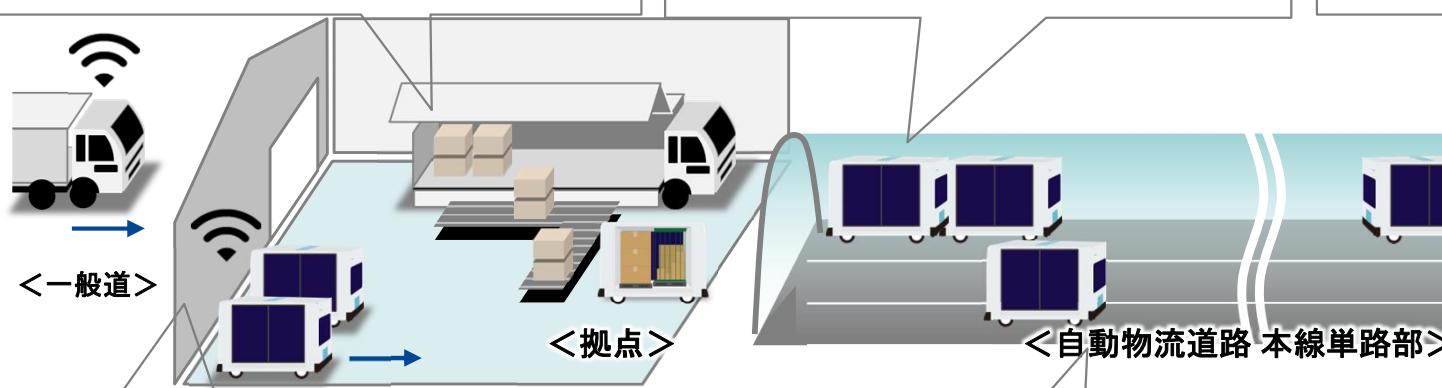
ユースケース② 大林組、大成建設、 成田国際空港・千葉県、Cuebus 本線単路部：搬送機器の自動走行

速度や荷物重量の異なる搬送機器の自動走行の状況、必要な道路幅、走行環境、荷物への影響などを検証



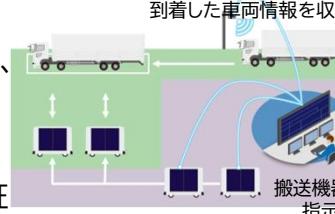
ユースケース③ 鹿島建設 本線単路部：異常検知及び搬送機器の回避行動

異常発生時の検知能力や、それに対する回避行動における走行技術および制御の精度について検証



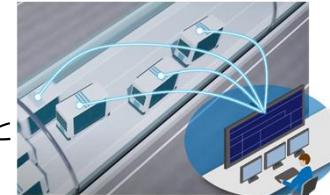
ユースケース⑥ 野村不動産 拠点：搬入車両の到着予定情報の情報提供

搬入車両の到着予定情報をシステムで受信し、搬送機器へ指示。車両の到着に合わせて搬送機器をスタンバイさせる運用について検証



ユースケース⑤ 前田建設工業 その他：搬送機器の運行管理

搬送機器や荷物の運行状況を管理するためのシステムについて、その有効性と課題を検証



ユースケース④ NTTドコモビジネス、 大成建設、成田国際空港・千葉県 本線単路部：搬送機器の通信安定性

トンネルなど通信環境が不安定な状況下においても、自動走行が可能かどうかを検証



実証実験スケジュール

2026年2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
		大林組 (ユースケース2)				
		NTTドコモビジネス (ユースケース4)				
8	9	10	11	12	13	14
				↔ Cuebus (ユースケース2)		
15	16	17	18	19	20	21
	↔ Cuebus(ユースケース2)					
	↔ 成田国際空港、千葉県(ユースケース2, 4)					
22	23	24	25	26	27	28
		↔ 鹿島建設 (ユースケース3)				

※実験実施日のみ標記(準備日・撤去日は除く)

※代表企業名のみ記載

※赤字・赤矢印線は国総研、青字・青矢印線は自社施設等で実験を実施予定

採択事業者一覧

参加グループ	ユースケース
野村不動産株式会社、株式会社 IHI、株式会社 IHI 物流産業システム、ナカオ工業株式会社、 フジトランスポーティ株式会社、 株式会社 NX 総合研究所	ユースケース 1、6
株式会社豊田自動織機	ユースケース 1
株式会社大林組、PLiBOT 株式会社、 日本マイブルロボットテクノロジー株式会社、 NTT ドコモビジネス株式会社	ユースケース 2
大成建設株式会社、株式会社ティアフォー、 大成ロテック株式会社	ユースケース 2、4
成田国際空港株式会社、千葉県、PLiBOT 株式会社	ユースケース 2、4
Cuebus 株式会社	ユースケース 2
鹿島建設株式会社	ユースケース 3
NTT ドコモビジネス株式会社、株式会社大林組、 PLiBOT 株式会社、日本マイブルロボット テクノロジー株式会社、セーフィー株式会社	ユースケース 4
前田建設工業株式会社、株式会社 TBM システムズ、 ワム・システム・デザイン株式会社	ユースケース 5